

日本看護歴史学会 會報

日本看護
歴史学会
第73号
2020年1月15日

年頭所感

日本看護歴史学会理事長 佐々木秀美



佐々木秀美 理事長

2020（令和2年）年の新春を迎え、会員の皆様におかれましては健やかな年をお迎えのことと存じます。川嶋みどり理事長の後任として日本看護歴史学会の理事長に就任し、身のひきしまる思いでございましたが早々に三回目の年頭を迎えます。今年は理事改正の年であります。会員の皆様におかれましては、日本看護歴史学会がますます発展しますよう理事選挙で適任の方をお選びいただきますようご協力をよろしくお願い申し上げます。

日本看護歴史学会（Japan Society of Nursing History）は、看護に関する歴史の新たな方向性と可能性を求め、広く看護歴史を考究することを目的としています。学術（Academic）の持つ意味を考えた場合、看護が学問であるかどうかの議論がなされた歴史的事実（Historical facts）も見逃せない問題でもありましょう。現実社会を見渡せば看護界で起きている問題は山積しています。現実の持つ様々な局面を思想的に受け止め、その受け止めたものを自己の検討の対象とし、さらにあらゆる異論と突合せていくことが歴史研究であると考えます。

私も昨年度末に六史学会に参加し、看護以外の学術分野における歴史研究に触れました。違った分野から違った切込みをした研究は誠に興味深く感じましたし、すべてが深いところでつながっていると思いました。その意味で看護歴史研究も広く研究成果を公表し、他分野の方々の意見をお聞きすることもまた、必要であると考

えます。

ナイチンゲールはオーギュスト・コントの「知性は心に問いを抱かせ、心は知性に答えを要求する。」という言葉自身に引用しています。その意味合いから考えますと歴史研究は現実問題を解決するための一つの手法でもあると考えます。西洋の文明を受けつつ、慈悲深き東洋の一国家として歴史を刻んできた私たち日本国民一人一人が地域の中で、近隣との交流を成しながら特有なつながりとケアリングがあるということも日本文化の歴史の一つでしょう。私たち、看護専門職者は、そうした文化を継承しつつ、看護の本質探求を実践していく必要があります。

時は自然に流れ、止めようもありませんが、自身のその一瞬一瞬が社会の変化とともに歴史に刻みこまれるということを考えますと、歴史研究も、焦点を当てた事物があった場合、その事物の背後にある事柄と突き合わせますと新たな発見につながっていくものであると思います。個人の歴史を振り返ると同じように歴史を振り返るのは人間の主体的な行為であり、各人の問題意識に従って課題が設定され、研究が実践されます。看護における歴史研究は科学的な実証研究であり、現地点に立ちながら過去を検証し、将来の展望を示唆することも可能となります。未来は無敵大ですし、現代は片時も休まず歩み続け、そして過去を振り返ってみても目が眩むほどかなたです。ですが、先人の知恵は今に息づき、未来を見通すほどに意味深い発見をすることができるかもしれません。それが歴史研究の魅力であると私は考えます。

日本看護歴史学会会員の皆様におかれましては、それぞれのお立場で看護における課題発見とその解決の為に糸口として歴史研究に邁進され、その研究成果が毎年開催されます日本看護歴史学会学術集会在盛会でありますことを祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

日本看護歴史学会第33回学術集会を終えて

テーマ：高度実践時代に向けて看護と専門職のこれからを考える

日 時：2019年8月31日、9月1日

会 場：日本赤十字看護大学

会 長：川原由佳里（日本赤十字看護大学）



川原由佳里 学術集会会長

2019年8月31日、9月1日、第33回学術集会を開催いたしました。学術集会には245名の会員、専門職の方、院生、学生の皆さんにご参加いただきました。皆様のご参加に感謝申し上げます。

第33回学術集会では、『高度実践時代に向けて看護と専門職のこれからを考える』をメインテーマに、高齢社会と社会保障費の高騰などの社会の変化と、看護の高度実践化が進む時代を見据え、あらためて看護とは何か、どのような専門職でありたいのかを考え、今後の展望と課題を整理し、今後の発展の礎とする機会にしたいと考えました。

教育講演の岡谷恵子先生（日本看護系大学協議会）「日本の高度実践看護の始まり、今、そしてこれから」と題して、日本の高度実践の始まりとなったCNS（Certified Nurse Specialist）に寄せられた当時の関係者の期待や今日における課題について、豊富なデータをもとに解説いただきました。実力を備えたCNSを養成すること、現場で活用することもさることながら、資格制度の基盤となる法、専門職的自律性の観点から高度実践の制度をどう整備していくかが重要な課題となっていることが伝わってきました。

招聘講演Julie Fairman先生（ペンシルバニア大学）からは「The Evolution and Future of Advanced Practice」と題して、NPが登場する前から、米国ニューヨークのヘンリーストリートセツルメントや、フロンティアナーシングサービスなど、類似のケアサービスが戦前より戦後にかけて存在していたこと、医師が少ない地域でNPが徐々に受け入れられていったプロセスをお

話いただきました。1965年にNPが誕生してすでに半世紀を過ぎて、NPの行っていることは看護なのか、医師の診療なのかという問い自体が意味をなさない、米国看護師たちの「あたりまえの感覚」に、少しめまいがするような感じもしました。

シンポジウムでは、CNSをけん引してきた立場から宇佐美さおり先生（四天王寺大学）、法学の立場から峯川浩子先生（常葉大学）、NPとして塚本容子先生（北海道医療大学）にお話をいただきました。さまざまな課題はありますが、塚本先生曰く「拡大expandでも延長extendでもない、一歩進んだAdvancedの看護」のアウトカム（CNSも、NPも）をはっきりと感じられたことが、なによりも希望がもて、多いに勇気づけられるものとなりました。

理事会セッション1は永田浩三先生（武蔵大学）による「従軍慰安婦の真実」、2は吉田澄恵先生（東京医療保健大学）による「教育制度から看護専門職の未来を考える」、3は矢野正子先生（聖マリア学院大学）による「今、改めて看護歴史の研究方法を学ぶ（第5回）看護制度史」で、大変好評をいただきました。

発表は、口演9題（卒業研究2題を含む）、示説17題、交流セッション2題でした。卒業研究はこれからの看護を担う若い世代に、看護の歴史に興味をもってもらいたいという企画でした。いつもながら口演や示説では、会員相互の熱いディスカッションが行われていました。また日本赤十字看護大学の所蔵史料をご覧いただくための展示コーナーも設けました。研究意欲と元気が湧く有意義な2日間になったと思います。

今後も歴史の流れの中で、さまざまな時代や社会の要請に応じて、看護は変容を遂げることでしょう。新たな役割を引き受けることによる葛藤は避けられないと思います。それでも人々のニーズを真摯に見つめ、それに応じる「看護」として、発展していきたいと考えます。

最後に、学会の開催にあたり、多くのご寄附等をお寄せいただきました企業の皆様、また多大なるご支援を賜りました関係者の皆様、ボランティア、実行委員の皆様深く感謝申し上げます。



J.A.Fairman先生



ポスターセッションの様子

卒業研究

「沖縄戦の経験が女学徒にもたらした変化—戦争を経ての平和の思いに焦点をあてて」
を發表して

芳賀赤十字病院 半田 味那

今回歴史研究を行い、発表をさせていただき経験したからこそ感じたことがたくさんあった。まずは、歴史研究は過去の出来事を研究するため、史料や当時者の発言データがとても重要であり、細かく見落とすことなく資料収集していくことが大切と感じた。それに伴い、時代背景が大きく影響していること、地域性や国の特性も知っていることで、より研究が進みやすいことを知った。また、過去を知ることで、今後どのようにしていくべきか、現在の課題について考えさせられることも数多くあると思った。

研究、発表をしていく上で1番に感じたことは、歴史研究は多くの方々に支えられて完成するもの、

また終わりのない研究であることである。過去の出来事の信憑性を確かめるためには1つの資料だけでは成り立たず複数の資料が必要であること、過去の出来事を調べていくとまた新たな事実が見つけ出されることもあると感じ、違った視点で研究テーマを見直すことで新たな研究を行うことができると感じた。

決して変わることはない過去の事実であるからこそ、正解を探しあらゆる可能性を見つけ出すことが興味深い。今回、歴史研究をさせていただきまた新たなテーマで実施していきたいと強く感じる事ができた。

六史学会報告

日本看護歴史学会理事 鈴木 紀子

2019年12月21日（土）、順天堂大学で恒例の六史学会合同例会が開催された。この例会は、医師・歯科医師・獣医師・薬剤師・看護職といった専門職の他、東洋医学や人文科学分野の研究者が一堂に会する研究発表会である。今年は4名の会員が参加し、交流を深めた。

日本獣医史学会からは「日本における牛白血病の発生と拡散の歴史」（小林朋子氏）、日本歯科医史学会からは「なぜ戦後、医学部と歯学部のみが6年制大学となれたか」（佐久間奏司氏）、洋学史学会からは「野中家蔵書の浅田宗伯自筆書籍について」（青木歳幸氏）、日本医史学会からは「ヴィクトリア時代イギリスにおける医師資

格—高木兼寛の場合」（永島剛氏）、日本薬史学会からは「医家と神仙家の生薬の基源」（御影雅幸氏）と、各分野の専門家からの新たな知見や現在のトピックに関する研究成果を、興味深く聞くことができた。

本学会からは理事長の佐々木秀美氏が「ドイツにおけるディアコニッセ養成を原点とした看護教育の歴史」を発表した。1953年にディアコニッセが静岡県浜松聖隷に派遣された時の写真や手紙などを紹介し、看護教育への影響について論じられた。



第34回日本看護歴史学会学術集会のご案内

歴史から学ぶこれからの看護

会 期：2020年9月4日（金）・9月5日（土）
 会 場：徳島文理大学保健福祉学部看護学科・地域連携センター
 会 長：金井 一薫（徳島文理大学大学院看護学研究科）



金井一薫 学術集會会長

令和の新しい年が明けました。今年にはナイチンゲール生誕200年を記念する特別な年です。世界保健機関（WHO）と国際看護師協会（ICN）は、2020年をナイチンゲール生誕200年に因んで、“国際看護師・助産師年”と定め、世界の人々の健康にとって看護師・助産師のパワーが重要であると訴えています。

今、看護界には、新たな進化を期待する強力なメッセージが寄せられています。看護は、科学技術の粋にあるAIにはできない癒しの力を提供する職業である点を強調し、看護本来の姿を世界に示すチャンスだと思っています。

さて、第34回日本看護歴史学会学術集會は、本会では初めて四国・徳島市で開催されます。これまでの33回にわたる歴史学会の内容と、学会が大事にしてきた視点を継承し、今回は「歴史から学ぶこれからの看護」と題して開催いたします。

歴史的史実は過去の歴史の中にありますが、それらを掘り起こすだけでなく、学問を構築する者としては、歴史から深く学び、それを近未来の看護のあり方やかたちとして、いかに活か

すかという視点が問われると思います。

演者の方々にはその点を踏まえて、近未来の看護界に大きなインパクトを与えてくださるようお願いしました。他の学会では耳にすることができない斬新な講演をお聴きください。

近代看護の創設者ナイチンゲールが、あの時代に、未来の国と人々に対して何を望み、何を託そうとしたのか、ナイチンゲールが抱いていた夢の知られざる側面を明らかにすることは、本学会のひとつの使命であろうと思います。開催校の徳島文理大学においては「ナイチンゲール展」を準備し、貴重な資料とともに、日ごろ接することのない展示物の数々をご披露いたします。

さて、“徳島”といえば「阿波踊り」、そして文人「モラエス」が生きた地です。ヴェンセスラウ・デ・モラエスはポルトガル人ですが、徳島の女性と結婚し、生涯徳島を愛し、多くの文章を書き残しています。新田次郎氏とそのご子息の藤原正彦氏の共著『孤愁』で有名になりました。街にそびえる「眉山」に建てられたモラエスの銅像の脇からは、遠くに淡路島や紀伊半島が一望できます。モラエスの研究者・石川榮作先生のお話に耳を傾けてください。きっと、徳島という地が好きになることでしょう。

皆さま、どうぞご友人・知人をお誘いあわせのうえ、9月4日～5日には徳島にお越しください。心からお待ちしております。

プログラム

9月4日（金）

会長講演	歴史から学ぶこれからの看護 —ナイチンゲール思想をどう継承するか 金井 一薫（徳島文理大学大学院 教授）
教育講演	ナイチンゲールが描いた21世紀の在宅看護 小川 典子（順天堂大学 教授）
特別講演	ポルトガルの文人モラエスと徳島 石川 榮作（放送大学徳島学習センター 所長）

9月5日（土）

教育講演	看護の危機と未来 川嶋みどり（日本赤十字看護大学 名誉教授）
特別企画	歴史から学ぶ学問としての看護に必要なもの —看護教育の黎明期を知る31人の識者からの意見をもとに— 北島 泰子（東京有明医療大学 准教授） 前田 樹海（東京有明医療大学 教授）

一般演題登録について

[演題名登録締切]

2020年1月27日(月)～5月20日(水)迄

[抄録提出締切]

2020年1月27日(月)～6月22日(月)迄
日本看護歴史学会 第34回学術集会ホームページ
(<https://jsnh34.secand.net/>) からのオンライン登録のみとなります。

一般演題(口演・示説)

- 日頃の皆様の研究を発表する機会としてください。
 - 発表は看護の歴史に関する研究となります。
 - 口演は発表時間15分 質疑応答5分、示説は発表時間10分 質疑応答5分です。
- 演者は、共同研究者も含めて本学会の会員の方であることとします。演題登録に際し、入会を希望される方は、下記の手続き方法をご参照の上、登録締切り日(2020年6月22日)までに入会申し込みをお済ませください(2019年度中に会員である必要はありません)。

- ※ 入会申し込みは日本看護歴史学会のホームページに示された手続き方法に沿ってください。
<http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/invitation>

参加登録について

[参加登録受付期間]

2020年1月27日(月)～6月30日(火)迄
日本看護歴史学会 第34回学術集会ホームページ
(<https://jsnh34.secand.net/>) からのオンライン登録をお願いいたします。

事前申込について

■ 事前申込期間

2020年1月27日(月)～6月30日(火)まで。
それ以降は当日受付となります。

参加費	会員	非会員	学生
事前申込	7,000円	8,000円	—
当日受付	8,000円	9,000円	2,000円

- ※学生(大学院生は除く)は当日学生証をご提示の上、受付にてお申込みと参加費のお支払いをお願い致します。(集録の配布あり)

- 懇親会参加費：5,000円(当日申込も可能)
- 9月4日(金)のお弁当注文：1,300円(事前申込のみ・お茶付き)
近隣には飲食施設がないので、昼食はお弁当をご持参いただくか、お弁当を事前申し込みいただくと便利です。当日、会場でのお弁当販売はありませんので、ご注意ください。

参加費のお支払いについて

- 入金締切り 7月6日(月)
- 郵便局の振替口座または市中銀行からお振込みをお願いいたします。
- 登録後、事務局から送信されるEメールに記載してある口座へ指定の金額をお振込みください。
- ご登録は、ご入金の確認をもって完了となります。入金後の参加費の返却はできません。

〈専用振込用紙をお持ちの方〉

本学会の学術集会より送付されました払込取扱票をお持ちの方は本用紙をご使用ください。

〈専用振込用紙をお持ちでない方〉

お近くのゆうちょ銀行または郵便局の貯金窓口で、下記の口座番号にお振込みください。

お振り込み先
郵便振替口座 00260-2-90167
口座名義 第34回日本看護歴史学会学術集会

〈他の金融機関からお振込の方〉

仮登録後事務局から送信されるEメールに記載してあります口座へ振込をお願いします。
※振込人名は[受付番号+氏名]で記入してください。受付番号は3桁の数字です。
※振込の合計金額は参加仮登録受付メールに記載してあります。

交通アクセス

- JR徳島駅から路線バスをご利用の場合 約15分
徳島市営バス
[南部循環(左回り)]または[山城町(ふれあい健康館)]行きに乗車
[文理大学前]バス停下車 徒歩1分
- JR徳島駅からタクシーをご利用の場合 約10分
- 車をご利用の場合
徳島自動車道徳島インターチェンジから南方面へ約15分
神戸淡路鳴門自動車道鳴門インターチェンジから南方面へ約30分

学会事務局

徳島文理大学保健福祉学部看護学科

E-mail : 34jsnh@gmail.com

Tel : 080-9295-2192(学会専用)

第12期理事・監事選挙の公告

2019年8月31日の総会で、第12期理事・監事の改選が確認されました。これにより「日本看護歴史学会理事および監事選挙規則」に基づき、本会報の発行日をもって理事・監事選挙公示日といたします。

投票期間は、発行日より2020年2月29日（当日消印有効）までとなります。投票用紙は別途郵送のものを使用し、理事（10名）・監事（2名）に相応しいと思う会員に印をつけ、投票所宛の封筒を使用し、無記名で郵送して下さるようお願いいたします。

選挙管理委員会氏名

総会場で選出された選挙管理委員は次の通りです。

進藤 美樹氏 中井英美子氏 林 君江氏（五十音順）

なお、規則により、選挙権は会費を（今回は2019年度）期日までに完全に納入した人、被選挙権は、入会3年を経過し、会費を完全に納入した人に与えられます。



新入会員紹介(敬称略)

*（ ）内は会員番号 2019年7月～12月入会

岡田 信子 (19024)	松成 裕子 (19025)
塩田 愛子 (19026)	関根有香里 (19027)
伊藤 麻美 (19028)	



お知らせ

■事務局から

2019年度会員動向(2019年12月末現在)

- | | |
|------------------|------|
| 1. 会員数 | 337名 |
| 2. 入会者 | 5名 |
| 3. 退会者 | 23名 |
| (退会者9名 資格喪失者14名) | |

会費納入のお願い

会費滞納による会員資格喪失の期間は2年間です。年会費をまだ納入されていない会員の方は、郵便局の払い込み取扱票にて納入をお願いいたします。その際、住所・氏名・会員番号のご記入をお願いいたします。

所属・住所変更や退会手続きについて

ホームページの事務局「変更・退会届」から様式をダウンロードしていただき、事務局あてにご提出くださいますようお願いいたします。

編集委員会からのお知らせ

2020年より学会誌の投稿受付期間が6月1日から6月30日となります。

また、それに伴いまして、学会誌発行は、翌年(2021年)の2月1日(発行予定)に変更となりますので、ご注意くださいようお願いいたします。

編集後記

会員の皆様の多様な歴史研究を通して、今日の看護歴史学会の進展を見ることが出来ます。この度、会報を通して学会活動の情報を提供いたしました。(お)

日本看護歴史学会会報 第73号

企画・編集 小田 正枝(徳島文理大学大学院名誉教授)
三上 れつ(中部大学)
山崎 裕二(日本赤十字看護大学)

発行責任者 加藤 重子(事務局会報担当)

印刷 有限会社 新和印刷

事務局 〒737-0004
広島県呉市阿賀南2丁目10-3
広島文化学園大学看護学部内
加藤 重子/岡田 京子
TEL 0823-74-6000(代表)
FAX 0823-74-5722
e-mail katoi@hbg.ac.jp

学会HP <http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/>